



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ティッシュ・テック エクスプレス専用薬液 第三薬液
製品コード : 7113
供給者の会社名称 : サクラファインテックジャパン株式会社
住所 : 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
担当部門 : 開発企画部
電話番号 : 03-5643-2629 フリーダイヤル:0120-392-874 FAX番号:03-5643-3382
e-mail : general@sakura-finetek.com
一般用途 : 連続迅速自動固定包埋装置ティッシュ・テック エクスプレス専用試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2B
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)
誤えん有害性 区分1
上記に記載のない分類項目については、区分に該当しない又は分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:感嘆符、健康有害性



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : [H320] 眼刺激
[H335] 呼吸器への刺激のおそれ
[H304] 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険の恐れ
安全対策 : [P261] 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
[P264] 取扱い後はよく手を洗うこと。
[P271] 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
応急措置 : [P304+P340] 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
[P305+P351+P338] 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
[P312] 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
[P337+P313] 眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
[P301+P310] 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
[P331] 無理に吐かせないこと。
保管 : [P403+P233] 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
[P405] 施錠して保管すること。
廃棄 : [P501] 内容物、容器を国際、国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分名	化学式	含有量 (w/w%)	官報公示整理番号		CAS No.
			化審法	安衛法	
固形パラフィン	特定できない	70%以上	8-414	-	8002-74-2
鉱油 ^{注1)}	特定できない	29%以下	-	-	8042-47-5

注1)別名: パラフィンオイル、流動パラフィン

GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	: 皮膚に付着した場合、汚染された衣類を直ちに脱ぎ、多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。
眼に入った場合	: 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。 飲み込んだ後の嘔吐は、嘔吐物を誤えんすることで呼吸不全といった危険性があるため、気道の開放状態を保ち、直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状	: (固形パラフィンとして) 眼、鼻、のどを刺激する。 (鉱油として) データなし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	: (固形パラフィンとして) データなし (鉱油として) データなし
医師に対する特別な注意事項	: (固形パラフィンとして) データなし (鉱油として) データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
使ってはならない消火剤	: 棒状注水。
特有の危険有害性	: 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	: 火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。 消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	: 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	: 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 漏出したものを掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。
二次災害の防止策	: 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 滑って転倒する事故を引き起こす可能性があるため、製品の拡散を避ける。 漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱注意事項 : 取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策 : データなし

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

安全な容器包装材料 : データなし

8. ばく露防止措置及び保護措置

管理指標

物質名	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会	ACGIH
固形パラフィン	未設定	未設定	TWA 2 mg/m ³ , STEL -
鉱油	未設定	OEL-M(ミスト) 3 mg/m ³ (1977)	TWA 5 mg/m ³

ばく露防止

設備対策 : 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。

手の保護具 : 必要に応じて、適切な保護手袋を着用すること。

眼及びまたは顔面の保護具 : 必要に応じて、適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 : 必要に応じて、適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体

形状: 半ロウ状固体

色 : 無色～白色、半透明

臭い : 無臭

融点 / 凝固点 : 35～65℃。等級で変わる。

沸点又は初留点 : データなし

および沸点範囲

可燃性 : データなし

爆発下限界及び爆発

上限界 / 可燃限界

引火点 : >120℃

自然発火点 : データなし

分解温度 : データなし

pH : データなし

動粘性率 : データなし

(鉱油として)

3.83 ~ 16 mm²/s at 40°C(備考:外部SDS)

溶解度 : 水に不溶
 n-オクタノール/水分 : データなし
 配系数(log 値)
 蒸気圧 : データなし
 蒸発速度 : データなし
 密度及び/又は相対密度 : データなし
 相対ガス密度 : データなし
 粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし
 化学的安定性 : 通常条件下で安定。
 危険有害反応可能性 : 危険な重合は起こらない。
 避けるべき条件 : 熱、高温、圧力、機械的衝撃
 混触危険物質 : 還元剤、強酸物質
 危険有害な分解生成物 : 炭素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性 : 急性毒性(経口)
 (固形パラフィンとして)
 ラットのLD50値>5000 mg/kg(IUCLID(2000))、>3750 mg/kg(IUCLID(2000))に基づき区分外とした。
 (鉱油として)
 LD50 経口-ラット->5000 mg/kg(備考:外部SDS)

急性毒性(経皮)
 (固形パラフィンとして)
 ウサギのLD50>3600 mg/kg(IUCLID2000)に基づき、JIS分類の区分外(国連分類基準の区分5または区分外)とした。
 (鉱油として)
 LD50 経皮-ウサギ->2000 mg/kg(備考:外部SDS)

急性毒性(吸入:気体)
 (固形パラフィンとして)
 GHSの定義における固体である。
 (鉱油として)
 データなし

急性毒性(吸入:蒸気)
 (固形パラフィンとして)
 データなし
 (鉱油として)
 データなし

急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)
 (固形パラフィンとして)
 データなし
 (鉱油として)
 LD50 吸入-ラット-4h->5 mg/l(備考:外部SDS)

皮膚腐食性/刺激性 : (固形パラフィンとして)

- ウサギを用いたDraize法による2試験において、24時間適用で「not irritating」と「slightly irritating」の結果があり(何れもIUCLID(2000))、また20人のボランティアでの皮膚刺激性試験の結果、1人にわずかな紅斑が認められた以外、他の19人は刺激性を示さなかったとの報告がある(IUCLID(2000))。以上の結果に基づき、区分外とした。
- (鉱油として)
- ウサギへの皮膚刺激なし(外部 SDS)
- 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 : (固形パラフィンとして)
- ウサギを用いたDraize法類似試験において、軽度(slightly)の刺激性(IUCLID(2000))およびウサギの標準Draize試験において軽度(mild)の記述(RTECS(2008);Journal of the American College of Toxicology. 3(3), 43, 1984)に基づき、区分2Bとした。
- (鉱油として)
- ウサギへの眼刺激なし(外部 SDS)
- 呼吸器感作性 : 呼吸器感作性
- 又は皮膚感作性 : (固形パラフィンとして)
- データなし
- (鉱油として)
- データなし
- 皮膚感作性
- (固形パラフィンとして)
- データなし
- (鉱油として)
- MAGNUSSON-KLIGMANN-モルモット: 陰性(OECD試験ガイドライン406)
- 生殖細胞変異原性 : (固形パラフィンとして)
- in vivo 試験のデータがなく分類できないとした。なお、Ames試験(in vitro 変異原性試験)で陰性の結果がある(農薬安全情報(1992))。
- (鉱油として)
- 試験タイプ: Ames 試験 結果: 陰性(外部 SDS)
- 試験タイプ: 変異原性 結果: 陰性(外部 SDS)
- 発がん性 : (固形パラフィンとして)
- ラットに2年間経口投与した試験で、腫瘍の発生率は対照群と比較して差は認められなかったとの報告があり、長期毒性試験における、実験動物に対するパラフィン是非発がん性であるとの記述がある(JECFA(1993))。またウサギ・マウスの2年間経皮試験では、発がん性は認められていない(EHC20(1982))との報告もある。しかし、経口投与による試験では動物1種のための試験データしかなく、区分外とするには疑義が残るため「分類できない」とした。
- (鉱油として)
- 動物実験においては発がん効果は発現しなかった(外部 SDS)
- 生殖毒性 : (固形パラフィンとして)
- データなし
- (鉱油として)
- データなし
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : (固形パラフィンとして)
- ワックスヒュームは眼・鼻・のどに軽度(mild)の刺激性(PATY5th(2001))に基づき、区分3(気道刺激性)とした。
- (鉱油として)
- データなし
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : (固形パラフィンとして)
- ラット90日間経口投与試験(0, 160, 1600 mg/kg/day)において、赤血球と血小板の減少、肝細胞の空包化、肉芽腫の発達、壊死、腸間膜リンパ節における肉芽腫の発現、細胞の過形成、頸部リンパ節における肉芽腫の発現、心臓僧坊帽弁の基部におけるリンパ球様細胞浸透の増加(JECFA 1056(2003))などの所見が用量依存的に見られたが、区分2のガイダンス値以下で試験が行われていないためデータ不足により分類できない。

(鉱油として)
データなし
誤 え ん 有 害 性 : (固形パラフィンとして)
データなし
(鉱油として)
吸引すると肺浮腫と肺炎を起こす可能性がある。

12. 環境影響情報

生 態 毒 性 : 水生環境有害性 短期 (急性)
(固形パラフィンとして)
データ不足のため分類できない。
(鉱油として)
魚 LC50-Leuciscus idus(コイの1種)- >1000 mg/l - 96h(OECD ガイドライン 203)
ミジンコ等の水生無脊椎動物 -Daphnia magna(オオミジンコ)- >100 mg/l - 48h(OECD ガイドライン 202)
藻類 -Pseudokirchneriella subcapitata(緑藻)- \geq 100 mg/l - 72h(OECD ガイドライン 201)

水生環境有害性 長期 (慢性)
(固形パラフィンとして)
データがなく分類できない。
(鉱油として)
データなし

残 留 性 ・ 分 解 性 : (固形パラフィンとして)
データなし
(鉱油として)
結果: 31.3% - 本質的に生分解性(OECD 試験ガイドライン 301F)

生 体 蓄 積 性 : (固形パラフィンとして)
データなし
(鉱油として)
データなし

土 壌 中 の 移 動 性 : (固形パラフィンとして)
データなし
(鉱油として)
データなし

オゾン層への有害性 : (固形パラフィンとして)
当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。
(鉱油として)
データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国 連 番 号 : データなし
品 名 : データなし
国 連 分 類 : データなし
容 器 等 級 : データなし

海洋汚染物質	MARPOL73/78 附属書Ⅲ- 個品有害物質による汚染防止 非該当
MARPOL73/78 附属書Ⅱ 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)(固形パラフィン、鉱油) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)(固形パラフィン、鉱油)
消防法	指定可燃物 可燃性固体類(法第9条の4、危険物令第1条の12別表第4)
労働基準法	がん原性化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第7号)

16. その他の情報

引用文献	JIS Z 7252:2019 JIS Z 7253:2019 NITE(独立行政法人製品評価技術基盤機構) https://www.ghs.nite.go.jp/ 職場のあんぜんサイト(厚生労働省) https://anzeninfo.mhlw.go.jp/# EU CLP Regulation, AnnexVI OECDテストガイドライン(テストNo. 201, 202, 203, 301, 406) 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告(2021年度) https://www.sanei.or.jp/files/topics/oels/kyoyou_2.pdf
------	---

★この製品安全データシートは各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには十分注意して下さい。

また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。

卸店: